

ダムの湖面利用について

久慈地方振興局土木部 滝ダム管理事務所長 菊池 二三男

3月のずいぶんと柔らかな日差しに

湖面を覆いつくしていた氷が 急に溶け始めている

今年の溶けかたは いつもより早いとか

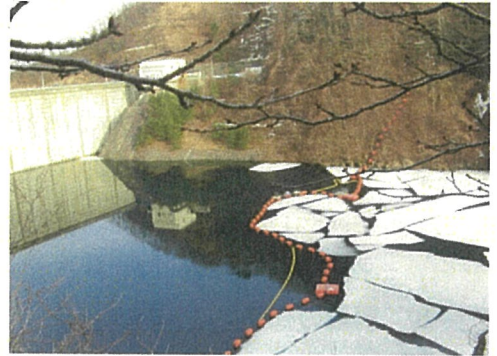
モ/トーンの景観に 顔を出した翠^{みどり}の湖面は

すぐ訪れる新緑をいざなうように 静かにただずむ

見事な季節ごとの変化に ただただ立ちつくすだけ

今年の雪は 滝ダム流域全体で見るとずいぶん多いそうで、

さあ これからの出水に遅れは許されないぞ



滝ダムが取り組んでいる、湖面利用の促進策。

昨年秋、地元の関係 9 団体で構成する「滝ダム周辺利活用推進協議会」による初めての「遊覧船就航」が行なわれました。ダムを地域資源としてとらえ、観光振興に、自然環境やもちろんダム機能の学習に、地域の歴史や文化を学ぶ場に、そして地域づくりにも活用したい。

協議会の取り組みには、大きな期待が膨らみます。

ダムの管理者は、洪水時にダム機能が円滑に発現されるように、毎日の地道な点検を基本とした施設管理が最重要課題です。また、この施設を地域の資源として活用していただくことも大切なことと考えており、積極的に地域の方々にアプローチすることも必要です。

3月11日(水)午後9時54分から、岩手めんこいテレビの県政番組「いわて希望大作戦」が放映され、湖面の利活用促進にかかる地元のみなさんの取り組みが紹介されました。このことは滝ダム管理者としても歓迎するところであり、こうしたツールを活用しながら、なるべく多くの方に情報提供していきたいと考えています。

湖面の利活用が行われることは、ダム管理者にとって手放しに喜ぶべきことではありません。

湖面利用の4つの基本原則「ダム機能保全の原則」「環境保全の原則」「公共性・自由使用の原則」「安全性の原則」が、適切に守られるように指導することはもちろん、場合によっては利用を毅然と断わることも必要です。利用を促進することは、管理者として「リスク」を負うことにもなります。

やはり、利用者として「信頼関係が構築できるか」が、そのためには「お互いに相手を理解し支え合えるか」が、それぞれに大切なのではないのでしょうか。

◆先に述べたテレビ取材でのコメントは、次のとおりです。

昨年 秋 滝ダムでは遊覧船が就航し 多くの人で賑わいました。

ダムの役割は 洪水被害を少なくするだけでは ありません。

私たちは 地域の方々の「観光振興や地域おこしにつなげたい」

こうした 取り組みを 応援します。



※ 県政番組「いわて希望大作戦」は、テレビ放送の他に、下記のHPでも動画配信されています。

<http://www.menkoi-tv.co.jp/program/kibou/index.html>